

今どきの社会現象

秋田家庭裁判所調停員・人権擁護委員 山崎 澄子 先生

5月20日 鷹巣町中央公民館

以前七日市でご講演されたことがあり、その講演を聞いた方々から熱烈なラブコールが寄せられて、このセミナーが実現しました。

先生は長野市ご出身で、日本体育大学体育学科を卒業された後、仁賀保町のTDK株式会社にて社会教育を担当、その後西目高校講師、秋田県警婦人補導員（ママポリス）、岩城町社会教育指導員などを歴任されました。現在は秋田家庭裁判所調停員並びに人権擁護委員という要職にあります。

当日はご自分で岩城町から運転して鷹巣まで来られました。少しの疲れも見せず迫力のあるお声とユーモアあふれるお話で、会場は時に笑いの渦に、時に我が身を振り返る静寂に、まるで山崎マジックにかかったように操られました。活字にすると伝わらないものが多いので残念なのですが、いくらかでもその雰囲気を感じてもらえればと思います。秋田弁も出来るだけそのままにしております。

「ネグレクト」

今日の社会現象ということで、お話させていただきます。自己紹介をさせていただきますと、昭和36年の秋田国体で夫と知り合いまして、秋田に移住することになったんですが、大学の先生から「これからは社会教育というのが重要になってくるからその先べんを切ってみないか」と言われまして、TDKという会社で福利厚生の仕事をしていただいた後、西目高校の講師を3年ほどやりました。

私は秋田県警でも早いほうのママポリスでして、昭和30年の後半に全県の最年少ということで、これが私が青少年の仕事に携わった原点だと思います。その後、母が高齢になってきて、警察の仕事というのは夜中も呼ばれますし辞めようと思っておりましたら、岩城町でどうしても社会教育指導員になって欲しいというので、ここで仕事をさせてもらいました。

最近ではニュースの報道をみて、涙を流

さない日は無いです。人の命をなんと考えているんだろう、お金のためなら手段を選ばないのかしら、と。何が原因かということは結論が出ませんが、信じるものを持たないと言うことと、父親の存在じゃないかなと考えます。

「ネグレクト」といいまして、子育てを放棄している親が増えている。例えば、おしめを換えてあげない、病気になっても病院に連れていかない、食事を与えない、お風呂に入れない。一日中ベビーベッドに入れておく。1年たっても離乳食を与えずにミルクでいたものから、栄養不足で亡くなってしまう。極端に言うと、子供を産む資格のない者が産むからこういうことになる。

裁判所の調停員とか人権擁護委員として、いろんな相談を受けるわけですが、本当に腹立たしくて思わず叫んでしまうことがあります。びっくりすることに、私が激昂すると逆に喜ぶんです。今まで親にも叱られた事がないと言って涙を流すんです。

最近調停離婚申込というのが多いんですね。子供の養育費などをちゃんと決めておこうということで、協議離婚ではなく調停離婚が多いんです。子供がいなければいいけど、子供がいるならばあまりにも無責任じゃないか、私が悪かったという一言でうまくいく場合もあるので、何とかまとめようと思います。すると「先生、しょうがねやんだ。別れるって言うもの、なんとするって」と言うんですね。「子供がいなければこんなこと言わないのよ、責任持ちなさいよ」と、乱暴に言いますと、がらっとかわって「怒られて何か吹っ切れました。」こうしてまとまったときは、今の人たちはこんなに親に叱られることさえないか来ちゃったのかと思います。

こんなときに父親の存在ですね。マイホームパパになりきるんじゃないで、子供の前に立ちほかれるような父親でしてもらえたらと思います。

子供を取り巻く人間関係

これからの保育園・幼稚園は私立・公立を問わず大変な時代になってきます。預けるお母さんにとっては便利になるかもしれませんが、この便利に慣れてしまうと、自然にしつけから逃避してしまう。

なぜかと言いますと、例えば岩城町の例として、今のところ岩城町の子供しか入っていません。ですから、岩城町の伝統行事やしつけやボランティア、空き缶拾いなどが町ぐるみ地域ぐるみで出来るわけです。ところがこれからは保育園、幼稚園を選べる時代になってくる。例えば岩城町のお母さんが、本荘や秋田に勤

めに出ると、その勤め先に近い園を親が選べる。そうしますと、経営ということになって、子供の奪い合いが始まってくるわけです。サービスに徹していくわけですね。どういうサービスか。秋田市の幼稚園はプールを造りました。それも温水プールです。それから、給食の充実。あるいは延長保育、都会の方では24時間体制。こうなりますと親は自分に都合のよいサービス内容を見て選ぶことが出来ます。今まで、しつけも含めて地域ぐるみでやってきたことが、家には寝に帰ってくるだけということで参加しなくなる。すると、どういうことになるか。

今までの家庭のしつけというのは、お母さん達の練習で終わっているんです。この子育ては一回しかないチャンスだよと言っても分からないですよ。育児書を見て、潔癖に、きれいにやるものだから、おばあちゃんに子供を見てもらうことをしないんです。この間もそんな母親が相談に来たら、「おばあちゃん是不潔で」って言うんです。何したの、って聞いたら「ダニ対策をしていない」って言うんです（笑）。何したと、ダニに食われたくらいで死なない。そこを切り替えていかなければ大変でしょ。

SOSを出してくれると、中に入っていけるんです。同じ子育てで真っ最中の親の中に入れると良くなっていく場合もあります。だから、人の交わりを無くすというのは大変なことだと思います。

御存知のように、秋田県は自殺率が一位です。少子化でジジババ暮らし、あるいは独り暮らしに多いんじゃないかと思われそうですが、複数家族に多いんです。二世三代の家でいながら孤独なんですね。人権相談に行きますと、いい暮らし

をしてるようなおばあさんが来るんです。家族の会話が無いというんですね。「柱さ向かって話してるようなもんだ」と。よく聞いてみると、自分から仕事を放棄している。嫁さんが来たから食事の用意をしない、とか。これが一番駄目ですね。とにかく何でもやってもらうのが当たり前だという気持ちでいる人。人のいるところに出ていかないという人。これがだめです。

だから、私は婦人会や町内会に伺いますと、とにかく人の秘密を守る訓練をなささいと言います。信用が出来てくると悩みを打ち明けられたときに、人間関係が出来てくる。こういう人間関係を持たなければだめだ、と。

家庭教育と地域教育

それから、地域の子供は地域が育てる。子供は声をかけてあげると本当に生き生きするんですね。

私は、母の介護に追われていたときに、娘に電話で音信を伝えていたんですが、これから手紙にしようよということで、手紙のやり取りをするようになったんです。私のうちは、おばあちゃんが私にはとても出来ないような子育てをしてくれたんです。畑に連れてって、ふんだんに土遊びをさせてくれて、野菜を育て花を育て、四季の移り変わりを体感させてくれたんです。

でも「どうしても孫はかわいがってしまうから、おまえ達がどんな子育てをしたいのか教えてくれ」と言うんです。そこで二つだけお願いしました。一つは履物がきちんと揃えられること。もう一つは物を頂いたときはまず仏さんにおあげ



して、夜家族が揃ったところでその方に感謝して頂くようにして欲しい。そうお願いしたものですから、母のおやつは全部手作りでした。だから私の娘の手紙はなかなかのものです。「お母さん、今ごろは茄子の花が紫に咲いているころですね。あの紫を草木染に出来ないものでしょうか」そういう書き方。「お母さん、キュウリの下に藁を敷きましたか」といわれて、慌てて敷きました。「この間スーパーでトマトを買ったけれどおいしくなかった。やっぱり家のトマトは最高ですね」って書かれると、野菜を贈ったりしますけど。

私は日曜日の大河ドラマが終わると書いて、月曜日の朝に投函に行きます。そうすると子供たちが「おはよう」と声をかけてくれます。「私もお手紙欲しいな」なんてかわいいことを言っています。そして帰りかけると、元民生委員の80近いおじいちゃんが、わたしの前に立ちまわります。「山崎さん、おら朝から腹あんべわりな。みんな山崎さんさだば『おはよう』て言うのに、おらみたいなじさまには誰も言わね」「せば、おじいちゃん、自分から『おはよう』て言わねの」「わらしだ言わねもの、なして言うって」「ほう、元民生委員でそなたに

偉いもんだってが」(笑)。

私だって初めは「おはよう」って言うてもばかにされたもんです。「あのおがさん、どこのだ」って。でも、この「おはよう」を続けたおかげでよその子供に声かけを出来るようになりました。皆さん、よその子供を叱るなんて大変なことになりますよ、今の世の中。でも、声をかけてあげることが出来るかもしれない。子供は嘘をつく場合もあるかもしれないけれど、あのおばさんにうそをついてしまったという反省が持てるような声かけていうのは、出来るんじゃないかなと思っています。

今どきの幼稚園

話を戻します。今の保育園幼稚園、この実情は大変なんです。今一番特徴的なのは朝のご飯を食べさせないで来るということ。

私の実家の兄嫁がベテランの保母で、話を聞きました。おはようって朝来ると、まず子供の靴を脱がせるためにかがみます。すると、姉の頭の上でお母さんが「朝のご飯食べさせないで来た」って言うんです。「アラー、それは大変。先生なに作ってあげたらいいかな」って言うと、注文つけるそうです。「私の子はこういうものがきらいだから食べさせないでくれ。これとこれは好きだから食べさせてくれ」って(笑)。

これは秋田県も同じですよ。で、靴を履き替えさせてお母さんのお顔を見たら飛び上がるんですって。時間がなくて朝ご飯を食べさせられなかったら、私たちの感覚だと自分の髪もブラッシングする暇もないって来るもんでしょ。何と、す

ぐサーカスに入るような化粧してるんですと。目のフチは真っ黒にして、口紅は子供にまま食わせないで自分は青むし喰ったような緑色してるんです(笑)。子供にまま食わせなくても自分は化粧してくる親。

それから迎えの時間を守らない親。いきなり電話が来て「今美容院に行ったら空いてたから、パーマかけて行くから一時間ばかり遅れて行く」、私たちの保育料で給料もらっているべ、と言わんばかりの言葉だそうです。保母さんはお預かりするのは何ともないって。だけど、今お母さんが来るって待っていた子供は「お母さん、遅くなるってよ」って言った途端かばん投げ出して暴れるそうですよ。お母さんが来て「○○ちゃん、大変でしたよ」って言うと、すぐ次の日市役所に電話して「あんな保母辞めさせてしまえ」って。自分のことしか考えていないんですね。

まだあります。迎えに来るお母さんの七割が、煙草の匂いがするというんです。お便りに対する回答を書いてこない。宮城県の教育委員会で通達を出しました。「入学前にこれだけはしつけて下さい」。基本的な生活習慣があまりにもされていない。例えば家族と一緒に食事をするとか、目上の人に対する言葉遣いだとか、上下関係を認識するとか、就寝時間起床時間を習慣化させる、その他にいろいろあるんですが、こんな基本的なことが出来ていない。

ご飯は大事

今、朝ご飯を食べてこない子供が、学級崩壊、学校崩壊を起こしているわけで

す。懇意にしている秋田短期大学の田中玲子先生に言わせると、朝ご飯を食べてこない大学生はすぐ分かるって。目が死んでいるって言うんですよ。やっぱり朝ご飯は飲むものでは駄目だって。堅いものを噛むことによって脳が活性化される。食事の30分、一時間後にパツとなる。それをやって来ないのはいつまでもボヤーンとしている。そして隣のものはやたら触る、なで回す、フラッと席を立てて人の頭をなでたり、廊下に出て奇声を上げたり、これが学級崩壊、学校崩壊なわけです。やっぱり親自らが食べなければいけない。お父さんもお酒のみ過ぎて、今朝はコーヒーだけ、ってのはいけない。

食事がいかに大切かということが続けます。小学校6年生の子供が家出しました。その時点で親から私に電話がありました。「何とすればええ」と。とにかくお友達関係と学校に連絡しなさい。それでも見つからない。では警察に保護願だしなさい。すると、東京で見つかった。これから迎えに行くというので、お父さんに行ってもらったらと言うと、「父さんなんか東京歩けねえ」と言うんです。で、夕方着いたという電話がありました。でも、元気がないんです。どうしたのと聞いたら、愛しい我が子に会ってよかったなと思って近づいたら、子供が逃げたと。帰りの電車の中でも一言もしゃべらない。どうかこの子に会って下さい、と言うので会うことにしました。

お母さんと子供がやって来ると、家の前で子供に気合いかけているんです。まず家の中にいれて子供を座らせて、コーヒーを出してあげました。腿が触れ合うように座って、子供の背中に手を回して

「寂しかったな。でも頑張ったな。偉い偉い」、そうすると私の腕に飛び込んできて、号泣しました。今までとにかく自分で踏ん張って寂しさに耐えていたのが、全部「偉かったぞ」という言葉で吹っ切れちゃったんですね。落ち着いたころにお母さんに聞こえるように、「お母さんがせっかく迎えに行ったのに、どうして喜ばなかったの」と聞きました。そしたら、こう言いました。「母さん、もっと手作りの料理が食べたい。」私は料理とはみんな作るものだと思っていたので、びっくりしてお母さんに聞いてみると、コンビニで買ってきてレンジでチンして食べさせているというのです。私は話しました。「お母さん、家庭の料理とはどこでも出せない味なのよ。」

このお母さんに話してあげました。今からもう30年も前になりますが、私の故郷で起った浅間山荘事件で、最後の突入の時に警察官が別れの盃をしました。そのお酒を届けたのが、警察官だった私の兄でした。その兄が冊子を送ってくれました。その中に信州大学の医学部の先生が書いていました。あの事件を起こした人たちは、地下活動の間インスタントばかりを食べて、たんぱく質・カルシウムなどが欠けたために、人間がますます凶暴になった、と。お母さんがコンビニで買ってくるものはだいたいそういうものでしょ。子供はその味に慣れちゃうのよ。

お手伝い

私が教育委員会にいたときに、3歳児教室をやっていました。そこで「みんなお手伝いできるかなー」というとみんな



「はい」って言います。「お手伝いってどういうこと」って聞くと、「新聞持ってくるの」「お茶わん片付けるの」「肩たたくの」ってみんな分かっています。でも、今の親はお手伝いを楽しくさせることを知らない。

例えば「お母さんも今日は7時のニュースが見たいから、お手伝いして」「じゃあね、お母さんが洗うからゆすいで頂戴ね」。ゆっくりしていたら「急行でお願いします」とか、「今度は特急でお願いします」とか、声のかけ方です。茶碗を割る子もいる。そういうときなんだよね。「ナナナ、この子昨日皿割って、明日なに割るベガ」てやればだめ。「このお皿じいちゃんのだから、じいちゃんに謝ってきて」って言えば、誰じいちゃん怒る？「めんどくせえ、お母さんやったほう早え」ってやっちゃえば、将来あなた達が泣くんだよ、と言う話をするんですけどね。

今のお父さんはネクタイ締めて、背広着て、車に乗って会社に行く。借金だらけの車でな。子供たちは借金のことなんか分からないから、車の大きさだけでお父さんを評価するんですよ。まさに今流行だね。とにかく親も子も流行に追われているもんですから、この流行が終わる

と、すぐ次の流行に移る。そうすると外の人間が自分をどう見ているかということにしか、神経がいていないんです。だから、今の子供たちは敬語も謙譲語も使い方を知らない。謙譲語に至ってはその意味すら分かっていないんです。

私はがさつ者ですが、お茶の教室を持っています。この教室で使った茶筌をもって羽黒山で茶筌供養をしてきました。茶筌を三宝に載せて、最後にのの字を書いて火の中に入れるんですが、この時の住職さんのお話が素晴らしかった。今の世の中の人間関係は、この「『の』の字」が忘れられている。今の人間関係は全て「と」で結ばれている。あなたと私、私とこども、全て横の関係だ。一体感のある「『の』の字」にかえなければだめ。あなたの私、私の子供、私の夫、この関係。これが思いやりを生む。私はこのお話にいたく感動しました。

挫折は人を育てる

今の高校生は生意気でね。親がそうしてしまったんですね。男の子は会話が無いんだ。「腹減った、じえん（お金）」しか言わないんです。親はやたら期待しすぎて行き詰まってきたんです。

私はよく小学校で、子供たちにお手伝いのこととか話をするんです。そうすると子供たちが「お母さんがさせてくれませんか。お手伝いしたいけれども、やれ『塾に行け』だとか『今日は家庭教師が来る』とかお母さんがみんな私の日程を決めてしまいます。」

だから私お母さん達に言うんです。「親の言うこと聞くのは歩留まり八分だからな。親を乗り越えることが十二分の

力を発揮するんだよ」って。それと大事なことは、負けるということと、恥をかくということ、格好の悪い体験を子供たちに大いにさせるべきことだと思うんですよね。何でもきれいな事に通ろうとするとだめなんです。

実は私の夫のことで恐縮ですが、常に秋田商業高校がサッカーの代表として出場していた頃、西目農業高校の監督として秋田商業高校を破って全国大会に出場したんです。この中に選手になれない子供がもちろんいるわけです。補欠にもなれないただただ球拾いをした子。球拾いで挫折してしまう子が沢山います。

今、秋田工業に遠藤アツシという教え子があります。彼は選手も補欠もマネージャーにもなれない子でした。体が弱くて。彼は私の夫が紅白試合をやっているときに球拾いをしながら、夫の審判の体の向き、ジャッジの仕方を勉強していて国際審判の資格を取ったんです。今、Jリーグが秋田に来ますと西目農業高校の教え子二人。日本鋼管で活躍した山田というのと遠藤と二人が審判をやる。だから苦しい時こそ目的を持つということがいかに大事か。

あの増田明美さんと私対談したことがあります。明美さんはあの通り体が小さいでしょ。体が小さいもんだから1万メートルで2回日本新記録出したのに審判の数え間違いで2回反故にされたそうですよ。それで誰が見ても絶対間違いのない勝ち方をして見せると、私涙流して聞きましたよ。だから私今あの人大好き。今に見ろ今に見るとスパイクの泥を



落とし、自分の寝る布団の脇においてそうやって靴を大事にしてきたんです。

あるときグラウンド1周の差をつけて見事に日本記録が公認された。靴のメーカーがこの靴履いてください、この靴履いてくださいと持ってきて、靴を手入れすることを忘れてしまった。思い上がってしまった。そのために私はオリンピック途中棄権というアクシデントに見舞われた。やっぱり私間違っていたと彼女言うのよ。すごいなあ、と思ってね。だからこういう経験でとん挫させないと、家で置物みたいにしたいんじゃないじゃねえ…。

宿泊研修

私の町では長期通学宿泊研修と申しまして、県立岩城少年自然の家でやります。親も学校の先生もタッチしないで、ほぼ1週間、ご飯も自分たちで作るんです。後始末、宿題、朝起きれば集い、お掃除、ご飯。これは子供たちにとっては大変なことなんです。ご飯は自分たちで作るんだよと説明しても、今までマンガやテレビ見てて、振り向けばご飯ができている生活していますから、何となくできていると思っている子もいるんです。そうすると「あの班ご飯できね。手伝ってやねば」ってくるんです。すると私「だまっておげ、1食ぐらい抜いたって死ぬもんでないからなげとけ」っていうんです。夜の9時頃までかかって、泣きながらやっと作る班があるんです。

次の日からそういうことになる目と目の色変わる。いじめも何もしてられないんです。普通そういう集団では必ずいじめが起きる。「ハイみんな集まって」「先生何するとこだ」「みんなと野外生

活始めるから班長さん決める」「なあんだ。」私はひそかに誰とでも仲良く遊べて非常に行動力があって・・・という人を選ぶと思ってのでしょ。なんか性格は暗いし、おどおどして心配な子を選ぶんです。みんな子供たちは賛成賛成というから、「この子でいいの」というと「いい、いい」というから「今に見ているよ」と思いながら、この子に5回くらい笛の吹き方を練習して「班長がこの笛を吹いたらどこにいても直ちに集まる。この仕事やってくださいと言ったら直ちにやる」約束違うなという顔をしながら約束ですから。そうすると、この機会にこの子をいじめから立ち上がらせるんです。そうやって自信をつけさせるんですね。

私もいじめの子を7ヶ月預かった経験がございます。これは、どういうことなのでしょうね。登校拒否、不登校、この子供たちに対しては学校に行けって言うてはいけない、と言っていて、その結果が悪かったって言うてるでしょう。何が何だかわからなくなってきてしまいますよね。

私は体当たりでぶつかりますから、学校行けとは私も言いませんでしたが、たまたま教育委員会という場所にいましたので「お母さん文化祭の用事で忙しいけど、手伝ってくればいいな」と言うて付いてついてくるんです。しばらく経ってからですけど「今学校訪問の用紙作っていきますから、校長先生、連れていきます」というと校長先生が「ああ会いたかったなあ」と言うてくれて、そういうことを繰り返して新学期になってから学校行くようになって。まあ7ヶ月かかりましたが。今公務員になって頑張ってるやっています。それで今堂々と話せるよ

うになったんです。それとやっぱり同性からいじめられたと、今でもよく言いますね。この子は今でも、料理上手だから家に作りに来てくれていますけど。

いつまでも一つのことを尾を引かないでね、その子の持っている力を引き出すようにね、私はあの子を甘やかさなかったです。私が出かけるときもきちんとやっておかなければ、あんた今日ご飯食べられないって。よその子であってもね。とってもそれを喜びましたしね。

それで、通学宿泊研修やるでしょ。何せ、パンツ1枚洗うのに粉石鹼1箱開けちゃうんですからね。お母さん達は箱持ちながら洗濯するもんだから、加減がわからない。確かに苦しい生活をするんです。あそこは歴代の所長の方針で、ジュースの自動販売機を置かないんです。水だけの生活なんです。最後の日にジュースを出すんですが、飲まない。水の方がおいしいって。

とにかく感想文を書かせると、辛かったって書くのが大半かと思えば、みんな家族に対する感謝なんです。ご飯の支度をするのにこんなに時間がかかるとは知らなかった。だから、お母さんお婆ちゃんがいてくれるから幸せだとか、雨の日の落ち葉は濡れていて掃き辛かった。お爺ちゃんがいつの間にか起きていて、掃いてくれていてありがたかったとか。

このことをきっかけに、中学校になると地元の特別養護老人ホームに行ってもらっています。特養ですから体の不自由な方が多いですね。すると自信がないわけです。「こんにちは」と恐る恐る言うとお年寄りの顔がぱっと変わって「アー来てくれたか、側に来てくれえ」と喜んでくれる。日常茶飯事、誰の命に受けな

いできたことをお年寄りにして差し上げるといふことは、ご飯の量はこれくらいで、お汁は熱くないか、爪は深爪にならないか、大変心配りのいる仕事であることが分かる。

岩城町に住む私たち、同じ町に住む人間として、この運動を私たちは続けていくべきだと思うし、できない人は手紙を書いたらいいと思う。こういう提言を今している。何でもやっぱり経験なんですね。経験することによって、弱い立場の人を理解することができるんですね。

介護について

最後に、簡単に介護の話をしたと思います。私の8年間の介護の経験を、今の介護保険法とだぶらせて考えてみました。

昭和59年秋田県で全国高校総合体育大会が行われた年です。私の夫がこの大会の責任者として開催されたんですが、夫の仕事の集大成ともいえる開会式を、雄和町の中央運動公園まで当時80歳の母を連れていきました。

私の母は大変苦勞した人で、6人の子供を授かったんですが夫に早く死なれてしましまして、財産も学歴もない、手に職もないということで魚屋を始めたんです。50年以上も前の魚屋ですから、全て背負うんですね。普通の人には60キロ背負うのが限界だそうですが、6人の子どもがいるもんですから70キロの魚を背負って商売をした人なんですね。何回も転びましてね、足が骨折しているのが分かったんですが病院に行ったら、入院手術。6人の子供が路頭に迷ってしまう。我慢してしまつたんです。そのために変形したま



ま足が固まってしまったんです。私が山崎家に行ったときには、杖がないと転ぶんです。

そういう状態でしたが、とにかく運動公園に連れていきました。喜びましてね、「いつお迎えが来てもいい、息子の仕事も見たし、オレいつ死んでもいい」って言うのよ。それから、2ヶ月後の朝、足に力が入らないと私に言うんです。どう足に力が入らないのって言うと、足が組めないと言うんです。これは大変だと思いきなり脳研に連れていきました。CTスキャンで異常なしで帰されたんです。するとその晩一晩で半身不随になってしまったんです。その当時の医学はそうだったと思いますし、今は早く運んだ方がいいって言いますけど。

それで救急車で行って入院したんです。7ヶ月入院しました。私も体育人ですから、ポータブル便器を持ってきて頑張つたんです。体の不自由な人がのし掛かってくると、体重が2倍3倍に感じられるんですよ。そして頑張りすぎたもんですから痛くすることもあるんですよ。持ち上げると「イテテテテ」「イテテテテ」「こんな嫁をもらう予定でなかった」って言う。こんな人でなかったんです。「イテテテテ」「ごめん、わりごとした。どこ痛くした」って言う。

そしてぎっくり腰は何回もやりましてね。寝返り打たせるのが大変なんです。

うとうとしたときに、枕落ちてきたと思ったら、枕ぶつけてよこしたっけもんね。「この嫁、人が苦しんでいるのに、よく眠ってられるな」ときたもんだ。母は私と夫との間で何かあると、夫に「出て行け」って言う人なんです。それが、あまりの変貌ぶりに私もびっくりしちゃって、落ち込んじゃったんです。夫に話そうと思っても、あっちは本当の親子ですからね。「オメやりかた悪い」と言われそうだから言えないんです。でも夫は見てたんですよ、やっぱり。「おれは昼はついてやることはできないけれど、おれが夜はここに泊まるからゆっくり休んでこい」と見てたんですよ。あのひげ面に後光が射して見えましたね。

そんなときに、お医者さんから「ちょっと」って呼ばれたんです。何ゴシャガレルベと思ったら、「山崎さんは真面目すぎる。もう少し手抜きしてもいいよ。お婆ちゃんの病気は脳梗塞だけど、今の症状は突発性混乱症といって頭が混乱しているんです。数日前の自分とあまりに違うからとんでもないことを口走っているけど、あれはお婆ちゃんじゃなくて病気がしゃべらせているんだから気にするな」と言われたんです。それから私も明るくなれて「悪い嫁だなあ。本当に間違ってもらったなあ」と冗談言えるぐらいになりましたから。あのお医者さんの一言は嬉しかったですね。

とにかく7ヶ月入院しました。80歳という高齢と元々足が悪いのでお引き取り願いたいと病院に言われまして、本当はもう少しおいて欲しかったのですが退院いたしました。

そして私は決心したんです。こんなに自分の子供をよく育ててくれたんだか

ら、私は仕事を辞めよう。借金はしても健康なら返せるんだからと岩城町に辞表を出したら、町長と教育長がすぐ飛んできてお婆ちゃんを見舞ってくれまして、あんた囑託として仕事やってくれと言ってくれた。おかげさまで8年間、そして6年歩いて長生きさせることができました。

いろんなことがありましたが、母の障害の程度は身障者2級でした。今の介護保険で言うと6段階のうちの要介護4くらいだと思いますね。これだと老健とか施設にお願いすることが当然できるわけですね。収入が沢山ある場合は要介護4で老健施設にいた人は、20万円前後のお金を払ったんですね。ところが今だとだいたい30万前後の1割負担ですから、3万円くらいで済むということになってきているわけですよ。今の状態でヘルパーさんとか訪問介護という形で来てもらえば、今までタダだったものが負担が生じてきてしまうんですね。五千円とか、内容や回数にもよりますがね。

今、全て資格資格の時代なんです。判定もね。資格でいくとこれも商業ベースになっていくわけですから、施設は介護の程度が重い方が収入になる。要介護5に認定されるとすると、リハビリをやると4とか3になるかもしれない。しかし、4とか3に下げていくと、施設に入るお金が少なくなる訳ですよ。悪い業者の場合一秋田県はそういうことが絶対ないと思いたすが一そうするとリハビリとかしてくれない場合も出てくるのではないか。何回も言いたすが秋田県の場合はキチンとなっていますか



ら心配ないわけです。しかしそういうのが商業ベースになった場合大変なんです。それと資格のある人が高い給料貰えるようになっていて。資格あるのも大事だけれど、じゃあ資格ある人に愛情あるかって私言いたい。

私はその点、医者がだめだと言っても自分自身も努力しました。そしたらね、介護も楽しくなって、効果も表れた。地域の人々が助けてくれた。公の世話になった。そして、畳の目を数えるような毎日だったけど一步一步進歩があって、そしてついに歩いた。歩いたといっても常に母の腰にヒモを付けていた。そして私の手からは雑巾やティッシュペーパーが離れたことがないんです。歩きながらもらすわけです。でも「一人でうんちしたいよう」ってお便所で言う。「あらーすごいわねえ」って行ってみればうんことおしっこの海。汚ねの、臭えのって言ったら、明日からリハビリ励まないと思えば「あら、お婆ちゃん良くやったなあ。お婆ちゃんついでにシャワー浴びるか」って。本当にお婆ちゃんのケツに何回手突っ込んだかわからね。うんこも毎日やっていけば臭くなくなるもんですな。

そして「お母さん、私昨日屋久島に行ってきたの」、オオオオ来た来た来たと思うんですよ。「何に乗って行ってきたの」「鳥に乗って行ってきたの」「あらあ、今度私も乗せてって頼んで」「お母さんだと重いからな」会話になる。この会話を繰り返していましたが晩年、痴呆がとれましたね。だから私は施設を選ぶのはお仕事している人とか、家の事情、そういうのは勿論ですが、家族の愛こそ大事だということを認識しないと、嫉捨山みたいな感覚で、ただ金勘定だけ

でやったんじゃあ、だめ。

「お婆ちゃんご飯食べるよお」って言うと振り絞る声で「米あったかあ」って言うんです。今の日本の国は豊かになってあきたこまち、ササニシキ、なんぼでもあるから「お婆ちゃん腹いっぱい食べれなあ」って言うと、不自由な右手を胸に持ってきて合掌して「いただきます」って言うんです。

うちの母らしく、あの冷害の年の5月15日に亡くなりました。だから、「米ねえ」って言わなくて済んだんです。ところが、私たちは「中国米まずい」とか「タイ米カビ生えていた」と文句言っても、ご飯をいただくことに感謝した人がいたでしょうか。そんなことも母から教えられました。

私も一人ではできないことをあるボランティア団体に入って、オムツたたみとか授産所の人たちと行動を共にして、いろんなことやらせてもらっていますが。母の介護をしてみて良かったな、というよりも、改めて母といい関係になって、いろんなことを教えてもらった。感謝の気持ちでいっぱい。結局は自分のためにやらせてもらったな、と思っているわけです。

話があちこち行ってしまいました、これで終わらせていただきます。



小島剛一氏のお話を聞く会

9月18日

鷹巣町こども風土記館

先号でお伝えしましたように、現在フランス在住の言語学者・小島剛一氏(秋田市出身)が帰郷された機会にということで急遽行われた臨時セミナーでのお話を、2回に分けてご紹介します。専門の言語についてのみならず、様々な分野について興味深いお話を頂戴いたしました。

「ビハーラ」って何？

「ビハーラ」という言葉を初めて聞いたときには、元が何語でどういう意味なのか全く見当が付きませんでした。外国語をカタカナで転写すると、BとV、LとRなどの区別が見えなくなってしまいますから、分からなくて当然なのです。サンスクリット(梵語)の言葉で、ローマ字ではvi-haraと綴るのだと教えていただいて、ようやく「僧坊・精舎(しょうじゃ)」のことだと合点がいきました。

言葉には、努めて分かりやすい言い方をして意思の疎通を図るのと、わざと分かりそうにない単語や表現を並べ立てて相手を煙にまくのと二つの使い方があります。「ビハーラ」は、さてどちらなのでしょう。

日本人には、どうもカタカナやローマ字書きの言葉を異常に有り難がる傾向があるようです。日本製の自動車の名前に「漢字ひらがな交じり」で書くものがないことにはお気づきでしょうか。大概の国では、自動車に限らず自国製品には、ドイツ語なり、ロシア語なり、フランス語なり、自分の国の言葉と文字で名付けするのが普通です。日本はなぜか例外。日本製の自動車で日本語の名前が付けてあるのはSubaruとCamry(冠)だ

け・・・という不思議な状況が現実です。

巷によく聞く「語学」という言葉も、外国語崇拝の顛れではないでしょうか。

「〇〇さんは語学に堪能だ」などという言い方をしますが、物理学にしる天文学にしる、〇〇学と名の付くものは、まだ誰も知らないものを知ろうとして研究するものはずです。スペイン語であれベトナム語であれ、外国語というものは、当の外国に行けばどんな子供でも知っていることなのです。それをせいぜいその国の子供並みに知るために努力することが果たして「学問」と呼べるものでしょうか。「学」の字を外して「スペイン語を習う」「ベトナム語ができる」「外国語に強い」という平易な言い方をした方が合理的ではないでしょうか。

アイヌ語は「何ヶ国語」ですか

他にも、まったく理屈に合わない表現の例として「〇ヶ国語」という数え方があります。「朝鮮語ができる人は北朝鮮と韓国と二ヶ国語ができる」と言ったらどこか変だとは思いませんか。

ドイツ語は、ドイツ・オーストリア・リヒテンシュタインで唯一の公用語、スイス・ベルギー・ルクセンブルグで「公用語の一つ」になっています。だからと

って、ドイツ語だけが話せる人をつかまえて「あの人は六ヶ国語が話せる」と言えるでしょうか。

アイヌ語はどこかの国の「国語」にもなっていません。アイヌ語と日本語が話せる人は「一ヶ国語しか話せない」ことになるのでしょうか。

変ですね。どこか間違っていますね。

国の数と言語の数は一致しないのです。一つの国にいくつもの言語がある場合もあり、同じ言語をいくつもの国で使っている場合もあります。「国語」や公用語になっていない少数民族の言語もあります。テレビの「二ヶ国語放送」などという表現は早急にやめていただきたいものです。まったく意味を成さないし、まさかとは思いますが、本当に特定の二ヶ国しか頭がないとしたら、その「二ヶ国語」を使っている他の国々に対してあまりにも失礼です。

田植えをするベートーベン？

翻訳の間違いが定着してしまっている場合もあります。例えばベートーベンの『田園』交響曲。ベートーベンが生涯に旅行した範囲を詳しく調べてみたことはありませんが、日本に住む人が『田園』という言葉聞いたときに思い浮かべるあの青々とした夏の田んぼ、たわわに黄金色に実った秋の田んぼを、1770年にボンに生まれ、1827年にウィーンで亡くなったベートーベンが見たことがあったとは…ちょっと考えられません。



『田園』交響曲は誤訳なのです。元の言葉は「山

羊・羊・牛などの群と共に生活し、乳・肉・毛・皮・角などを利用する生活形態の」、転じて「羊飼いの暮らしを彷彿とさせる」という意味です。

『畜産交響曲』や『乳牛交響曲』では音楽作品の題名らしくありませんね。『牧歌交響曲』ぐらいが妥当な代案でしょうか。

「ヤマタイ」国の謎

外国語の単語の誤訳ではなく、文字の誤った読み方がなぜか定着している場合もあります。

「ギシワジンデンという書物にヤマタイ国のことが書いてある」と子供の頃に習いました。「ヤマタイ国の場所としては北九州ヤマト（山門）説と近畿ヤマト（大和）がある」と聞きました。それじゃあ、ヤマタイが訛ってヤマトになったのかなあ…？

何年か経って「魏志倭人伝」は素直に「ギシワジンデン」と読めたのですが、「邪馬台国」を「ヤマタイ国」と読めというのには、子供心にも首を傾げました。辞書によっては「難読地名」に入っていたりします。なぜ「邪」と書いて無理に「ヤ」と読むのでしょうか。なぜ「ジャ」と読まないのでしょうか。また「馬」と書いて「マ」と読むのは「走馬灯」「頓馬」「鞍馬天狗」ぐらいのもので、大抵は馬術・馬耳東風・牛馬・車馬・驢馬・騾馬・出馬・落馬・馬鹿…のように「バ」と読みます。「駿馬」だけは「メ」。

また何年か経って…いろいろ調べて分かったのですが、「ヤマタイ国」という読み方は不可能なのです。魏志倭人伝の



原本成立時代、つまり魏の国の時代には「邪」の字は「ジャ」と読んでいました。ずっと後の唐の時代になると、意味によって「ジャ」と「ヤ」と二通りの発音があったようです。「馬」の字は、魏の頃には「バ」、唐代になると「メ」。「台」は「臺」の略字で、魏の時代には「ダイ」ですが唐代になると「タイ」。ですから、唐の時代の人には「ヤメタイ国」と読んでいたかも知れませんが、それより三百年以上前の魏の時代の人には「ジャバダイ国」としか読めなかったはずなのです。

それに加えて写本の文字遣いの異同の問題があります。「臺」と書いてある写本もありますが、どうも「壹」の字を使って「邪馬壹」と書いた写本（また略字の「一」を使って「邪馬一」とした本）の方が古いらしいのです。とすると、本来は「ジャバイツ（jabait）」と発音していたはずです。

（小文字のッは、シナ語の入声にっしょうを表記するためのものです。tの音を発音するために舌の先端を上歯茎にくっつけたところで発音をやめてしまうのです。入声を音声学の専門用語で「内破音」といいます。内破音は、現代の北京語にはありませんが、広東語・インドネシア語・朝鮮語・日本語の鹿児島方言などにあります）

日本の古い地名は、先に発音があって

後からそれに漢字を当てたのですから、もしも「ヤマタイ」という地名が存在していたのなら、当然魏の国の人に自然に「ヤ・マ・タイ」と読めるような文字を選んでいたはずで、魏の時代の人には想像もつかない三百年以上も未来の発音を先取りして漢字を選ぶなどということはありません。

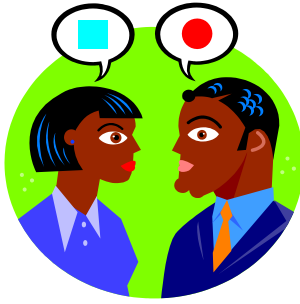
誰が何のために「ヤマタイ国」という不自然な読み方を創作したのでしょうか。「古代日本の中心は大和の国なのだから、何が何でもヤマトに近い読み方を」と望んで目のくらんだ人だったのでしょうか。もしそうだとすると「こじつけ読み」だと言わざるを得ません。もしかすると、濁音で始まるなんておおよそ日本の地名らしくないとその人は感じたのかもしれない。濁音で始まる波照間島（ばてるまとう）や笹子（じねご）という地名も南西諸島や東北地方には存在することを、その人は知らなかったのかもしれない。

「民主主義」って何？

翻訳語の中には、本来は順当な訳語だったのに、勝手な使い方をされているうちに意味が不明になってしまったものもあります。「民主主義」などその典型でしょう。

「民主主義って何ですか」という質問をすると、大抵の方が自由がどうの、平等がどうのということを言い始めます。自由はあった方がいいし、法の下での平等も大切なことですが、本来「民主主義」という言葉は「王政」「帝政」などの対語です。王、皇帝、天皇、首長、酋長などではなく、人民に主権のある政治

体制という意味で
す。王政だからと
いって人民に自由
がないとは限りま
せん。民主主義だ
からといって特権
階級がないとは限



りません。また、民主主義は自らが決めた手続きによって、独裁者を生み出すことがあります。ヒトラーは独裁者でしたが、王でもなく皇帝でもない。クーデターを起こしたわけでもありません。まったく「民主的に」選挙によって権力の座に着いたのです。「人民民主主義」の国には自由などないことを皆様ご存じの通りです。

また多くの方が「少数者や弱者を保護するのが民主的」とお考えのようです。しかし民主主義に基づく多党制議会制度というのは、多数派の意思が少数派を押し潰すということなのです。「民主主義に加えて弱者に対する思いやりも」というべきところを「民主主義なのだから思いやりを」と言うってしまうのは、民主主義の買いかぶりです。

法の下での平等ということについて一言付け加えたいと思いますが、私は天皇制は廃止すべきだと考えております。別に天皇家に個人的な恨みがあるわけではなく、戦争責任を問うというのでもありません。理由はただ一つ「天皇制は出生による差別を制度として維持することだから」です。

江戸時代に「士農工商」という身分制度がありましたね。当時の階級はこの四つだけでなく、上には天皇、皇族、公家があり、最下層には「穢多非人」がありました。開国後、「華族・士族・平民」

の時代を経て現代は身分制度はほぼ無くなりましたが、「前世紀の遺物」のいまだに制度として残っているのが、天皇と皇族です。人間の価値は生まれによって決まるものではないと確信している者には、たまたま天皇家に生まれたというだけの人が、無条件で、国民の誰よりも「身分が上だ」と決めつける差別主義は受け入れられません。現人神（あらひとがみ）などという過去の世迷い言は、冗談にしてもやめてもらいたいものです。

日本語の「カミ」の定義

「神（カミ）」という言葉も、定義不明のまま日本人の会話によく登場します。何の説明も前置きもなしに「神を信じますか」とか「神様が本当にいるのなら」とか。

正確に定義しようとするすると八百万（やおよろず）の神々だけでも一筋縄ではいかないのですが、漢字が伝来したときに「神」という漢字を日本語の「カミ」に当てたため、別の文明圏からやって来た道教の「神仙」や仏教の「神（シン）」概念と日本固有の「カミ」概念が、どこかで何となく、曖昧に、ぼやあつとつながってしまうことになりました。

明治時代になると、古典ギリシャ文学や北欧伝承の登場人物、キリスト教やイスラームの造物主などまでがこの同じ「神」という言葉で訳されてしまいました。神社神道、山伏信仰、仏教、道教、儒教などが複雑に習合している宗教風土だからこそ、「キリスト教徒でなくてもクリスマスを祝う」という（キリスト教徒が知ったら呆れ果ててしまう）国民的風習も成立しています。そんなわけで、

現代日本人の「カミ」概念は、分類し突き詰めて考えることは稀で、状況に応じて千変万化、曖昧至極で捉えどころのないものになってしまいました。

仏教用語には梵語の漢訳で「神」の字を含むものが多数ありますが、例えば「鬼子母神」など、素性は夜叉だということですから、訳語に「神」という字が使ってはあっても、本来「鬼」か「魔物」の類と考えた方がよさそうです。

「鬼神や魔神がいるから仏教は多神教だ」と主張する人もいますが、仏教信仰の中心となる仏陀は人間です。天（テン、毘沙門天など）や神（シン、鬼子母神など）は、キリスト教ならほぼ天使や悪魔に相当するものです。字面にとらわれずに観察すれば、仏教はシャーマニズムやアニミズムと同じように、神（カミ）概念のない「無神宗教」です。

日本語の「カミ」という言葉は、本来「滅多にないもの、説明の付かないもの」を指していたようです。道ばたの石ころはただの石ころですが、天から降ってきた石ころ（隕石）はカミで、かなりの数の神社のご神体になっています。摩訶不思議な形をした岩や殺生石もカミです。人間が火を焚いて沸かしたお湯はただのお湯ですが、地面からひとりで湧いて出るお湯（温泉）はカミです。兎の白いのはありふれたただの兎ですが、亀の白いのは滅多にないカミです。相性の悪い人や厄介者はどこにでもいるただの人間ですが、度を越えたストーカーとなると「厄病神」というカミです。「カミ隠し」というのは、意地の悪い神様がいたいけな子供をさらうという解釈も成り立ちますが、なぜどうして子供が忽然と消えてしまったのか誰にも説明がつかない

い、その人智を超えた消え方がカミなのです。何かの技術に並外れて優れている人は「カミ技」の持ち主です。

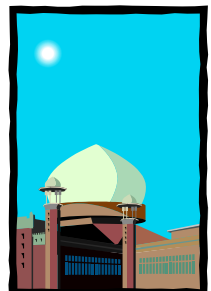
「掏摸（すり）の神様」と呼ばれている人もいますし、厄病神や貧乏神を祀った祠などどこにもないことを考えれば分かることですが、日本語の本来の「カミ」は、必ずしも崇拜の対象ではありませんし、善悪とも無関係なのです。

現代語では「山の神」や「おカミさん」のように、「カミ」が全然珍しくない普通の女性を指すこともあります。これは時と共に次第に意味がずれていった結果です。

「川上」「風上」「上方」「上の句」「お上」などという熟語に現れる「カミ」は、平安時代以降の日本語では「神風」や「神がかり」の「カミ」と同じ発音ですが、万葉仮名では二種類の「カミ」を発音によって書き分けていますから、奈良時代までは発音が違っていたことが分かります。もともと別の言葉だったのです。「紙」や「髪」も、音調（いわゆる高低アクセント）の違う別語です。

嘘は正義？

「神」の定義は宗教によって異なります。時間の概念も、善悪の尺度も異なります。神道のように独自の道徳性のない宗教もあります。宗教の有る無しにかかわらず、人間社会はどこでも「してはいけないこと」「していいこと」「しななければならないこと」などが、少なくとも不文律で



決まっています。さてそれでは「場合によっては嘘をつきなさい」と教える社会が、宗教が、たくさんあることをご存じでしょうか。

宗派によって若干の違いはあり、例外もありますが、キリスト教では一般に「秘密を守るために知っていることを知らないと言い張るのは構わない」ことになっています。イスラーム教では「敵に捕らえられたときには味方を守るために嘘をつき通しなさい」と教えます。「嘘を言って逃げなければ殺されると判断したときには嘘をついても構わない」とする宗派もあります。

そんなことを教えられなくても普通の人間は自分の判断で嘘をつくものですが、「こういうときには嘘をつけ」と教える社会では、やんごとない事情で嘘をついた場合に、全く気が咎めることなく晴れやかな心でいられるわけですから、

したたかな生き方だとも言えますが、逆にいうとそれに類した極限状況を何度も生き延びてきた苛酷な風土が、そういう生き方を選ばせたとも見ることができます。

こういう社会、「時と場合によっては嘘をつくのがよい」と教える社会が地球の大部分を占めています。日本語でも「正直者は馬鹿を見る」と言いますし「馬鹿正直」という言い回しもありますね。大げさに聞こえるかも知れませんが、日本を一步出たら「正直者は馬鹿である」「嘘は時には権利である」と考えなくてはなりません。

そんなことを言われるまでもなく、日本国内でも日々実行している日本人が、最近増えてきたような気もいたしますが…。

(後編に続く)



とびっくす

★ビハーラ忘年会開催

去る12月23日にビハーラの忘年会が開催され、今年一年を振り返り、またお互いの労をねぎらいました。

いつの間にか恒例となりました大俳句(狂句?)大会では、心暖まるものやら下半身が暖まるものやらワイワイガヤガヤ、隣のグループにはごめんなさいと言いたくなるくらいあんまり賑やかにあって、楽しく杯をかたむけました。

今回参加されなかった方も、今度はぜひ新年会にどうぞお越し下さい。



インフォメーション

★心といのちを考える会・講演会

講師：三浦 栄一氏 [社会教育主事・大館少年自然の家]

演題：未定

日時 2月24日(土) 午後2時～

会場 藤里町総合開発センター 大ホール

以前お伝えしましたが、秋田県における自殺問題を背景に昨年藤里町で発足した「心といのちを考える会」(袴田俊英会長)による公開講演会です。

講師の三浦先生は、歌あり笑いあり涙ありの元気の出るお話をしてくださる方です。ぜひお越し下さい。

★医療と宗教を考える会・第164回勉強会

「現代医療の持つ問題と宗教」

講師：小田垣 雅也氏 [神学者・国立音楽大学元教授]

日時 1月24日(水) 午後6時～

会場 東京・大朋会館(大朋ビル9階) JR神田駅南口徒歩1分

参加費 正会員 1,500円 会員外 2,000円

主催 「医療と宗教を考える会」 TEL 03-3864-7755 Fax 03-5687-6367

次回予告：2月28日(水) 午後6時～・大朋会館

「(仮題)『ケア』のこころ」

青木 和恵氏(国立がんセンター中央病院 看護部外来副看護婦長)

★仏教ホスピスの会・いのちを見つめる集い

お話：「落語とボランティア」 講師：古今亭 圓菊 師匠

日時 1月25日(木) 午後1時半～4時半

会場 興禅寺(台東区谷中5-2-11 TEL 03-3821-3684)

JR・京成日暮里駅、地下鉄千代田線千駄木駅 いずれも徒歩7分

参加費 500円(当センターの会員は無料)

主催 仏教ホスピスの会 TEL 03-3813-6577 Fax 03-3813-6794

仏教ホスピスの会(仏教情報センター内)は、宗派を超えて仏教の精神を「聞、思、修」し、出会いを喜び、ふれ合いを楽しみ、支え合いの手を差し伸べ、病む者、健やかな者の別なく共に「生、老、病、死」を語り、見つめなおす集いです。

仏教情報センター テレフォン相談 TEL 03-3811-7470

<http://www2u.biglobe.ne.jp/~bukkyo/>